令和7年度　長野県小諸商業高等学校　学校評価　自己評価（最終）

令和8年2月

A：達成できた　B：ほぼ達成できた　C：あまり達成できなかった　D：達成できなかった

学校教育目標	中・長期的目標
教育活動を通して、個人の尊厳と協調の精神を体得させ、民主的な国家社会の形成者たる資質を培うとともに、専門教育により広く国民経済における商業諸活動の担い手としての有為な人材を育成する。	・心身ともに健全で、人間性豊かな生徒を育てる。 ・学校及び社会生活の規律を重んじる心を育てる。 ・学習習慣を確立させ、自ら学び自ら考える態度を育てる。 ・進路目標を明確にさせ、その実現に向けて粘り強く努力する姿勢を育てる。

今年度の重点目標	分掌	評価	今後の課題・改善策等
1　基本的生活習慣の確立および、挨拶・身だしなみの徹底を図る。	1学年	B	生活習慣は概ね良好だと考えるが，一部で自分本位の行動が見られた。挨拶は自然とできている。ピアスや化粧，身だしなみの乱れ等には，これからも粘り強く声をかけていく。
	2学年	B	おおむね良好であるが、一部、身だしなみの乱れや持ち物の管理の甘さ、遅刻等がみられた。来年度の最終学年としての自覚が持てるよう、また来年度、始業が10分早まることを念頭に置き、引き続き指導していきたい。
	3学年	B	概ね良好であり、進路活動を意識して取り組むことができた。身だしなみや遅刻等に関して、一部の生徒で乱れがみられたため、継続して指導を行ってきた。
	生徒指導	B	生活習慣と挨拶に関しては概ね良好である。今年度は私服DAYや冬季の私服登校など新しい取り組みを実践しTPOを少しは考えられる機会を作れた。しかし一部の生徒で乱れがあるので粘り強く指導して行きたい。
2　自ら問いを立て、その解決に向けて主体的・協働的に取り組む力を育成する。	1学年	B	対話方法や協働様式，表現の多様性等を日々の授業で学ぶことができた。クラス横断授業や教科横断授業も一部で展開され，視点を変え視野を広げる一助となった。来年度の新校のカリキュラムを活かした計画を立てていきたい。
	2学年	B	日々の授業や修学旅行等の行事を通して、成長が見られた。来年度の進路実現に向け、主体的に活動できるよう、より一層指導に力を入れていきたい。再編に伴う夏季休業の増加を念頭に置き、特に就職希望者は早めに行動できるよう計画を立てていく。
	3学年	B	多くの生徒が自分の進路の実現に向け何をすべきか考えながら、主体的に活動することができた。また、課題研究などの授業により協働的な学びをした。１年次からの学習経験を積み重ね、主体性を伸ばした生徒も見られた。
	進路指導	B	様々な進路行事やキャリア教育イベントを開催し、生徒が視野を広げる場を提供できた。新校においても生徒が積極的な取り組みができる環境づくりを引き続き心がけていきたい。新校における探究活動での学びを進路指導に活かしていきたい。
3　地域社会との連携や協働による活動を通し、探究的な学びを推進する。	商業科	A	課題研究、デュアル実習、ビジネス探究プログラム等の各企業、学校との連携事業において、当初の計画通りに実施ができた。今後もより一層探究的な学びを推進するために、商業科目の授業内容・指導内容を見直し、探究的な学びへ転換していきたい。
	生徒会	B	高校生による魅力化プロジェクトの一環で、佐久地域に向けた新校PRイベントの企画運営小諸高校と合同で行った。一方で、昨年度に比べると地域社会に出ていく機会は減ってしまったので、次年度は新校に設置される地域連携協働室を積極的に利用し、社会に出ていく活動を行いたい。
4　学習活動や様々な行事等へのICTの積極的活用、および知見の共有を推進する。	ICT	B	・生徒、教員ともにICT活用スキルが向上している。 ・セキュリティ研修を行った。 ・今後は、生徒学習用端末の充電忘れなどの課題への対応、Edtechの活用などに取り組みたい。
	教務	B	「スタディサプリ」「ロイロノート」「Canva」などをさまざまな学習活動に活用することができた。「DXハイスクール事業」で整備された大型ディスプレイ等のICT機器を利用し、授業はもちろん、各種行事でも有効活用できた。
	生徒会	B	特に、小諸高校との合同生徒会において、オンライン会議やファイル共有による意見集約など、ICT機器を積極的に使用し、業務の円滑化を図っている。各種行事でのリモート中継については課題が残るため、機材の扱いを徹底し、スムーズな進行を心掛ける。
5　生徒一人ひとりの人権を尊重し、いじめ・体罰等のない、安心安全な学校をつくる。	1学年	B	価値観や感受性の異なる多様な生徒がおり、コミュニケーションがうまくとれず、人間関係で行違うことが見られたが，関係職員や保護者と連携し対応することができた。引き続き丁寧な対応を心がけたい。
	2学年	B	コミュニケーションがうまくとれない生徒もおり、人間関係で行き違うことが見られた。相談等を受けた場合は、関係職員が連携し対応することができた。今後も個々の状況を踏まえ、丁寧な相談・指導を継続していく。いじめや体罰等の報告はない。
	3学年	B	生徒自身の意識を高めるために、学年集会や学級で呼び掛けをおこなった。人間関係の行き違いなどに関して生徒からの相談があった場合には、担任を中心に関係職員と協力しながら対応できた。
	人権平和	B	・全校人権教育講演会をおこない、人権意識の啓発を図った。今後も生徒相談係と連携した取り組みがあれば考えて行きたい。
	生徒相談	B	今後もいじめ悩みアンケートやアセスを実施、活用をし、問題があればより多くの目で見て対応を考えていく。